

授業改善推進中期プラン **国語**〔小学校第4～6学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等	項目	内容
令和3年度 10月 第4学年	学習に関する児童の実態・課題	全国平均より全体で2.3%下回っている。 内訳は、「話すこと・聞くこと」は1.8%、「書くこと」は1.7%、「読むこと」は2.5%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は2.4%下回っている。 基本的な学力が定着できていない児童が多いので、基礎的な事項について家庭学習等において改善していけるようにする。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・学年配当の漢字を正しく読み、使える力。 ・大事なことを捉えて読む力、話を聞く力。 ・調べた結果を基に文章を書く能力。 ・文章を適切に区切り、接続詞などを用いて伝えたいことをより分かりやすく書く力。
	具体的な授業改善の方策	・言語文化に慣れ親しむため、辞書を使って言葉調べたり、分からない言葉を分からないままにするのではなく全体に発信していき、みんなで共有しながら身に付けさせる。 ・国語だけでなく、様々な教科のグループ学習で、双方向のやりとりを通して自分の意見を表現する経験を増やし、友達の見解に対して自分の意思を伝える習慣を身に付けさせる。 ・社会科の学習で調べたものを関連付けて、国語の学習で文章化させ、表を基に文章を書く活動を増やす。 ・資料を読み取ることができるようにする。
	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	・「聞くこと・話すこと」「読むこと」に関しては、相手意識をもって取り組む必要がある。 ・「漢字」と「言語」に関する学習が全国平均を大きく下回っている。朝学習の時間を活用して、漢字の書き取りを定期的に行い、定着を図る必要がある。また、日々家庭学習で課題を出し、繰り返し取り組むことが必要である。 ・言語文化に慣れ親しむため、辞書を使って言葉調べたり、分からない言葉を分からないままにするのではなく、交流会などを通して、共有しながら身に付けさせることを意識した学習を心掛けていく必要がある。
令和4年度 10月 第5学年	学習に関する児童の実態・課題	・「読むこと」 ▲読書が好きな児童が多い。大体の筋筋はつかめるが、深く読み取ることができていない。 ・「書くこと」 ▲伝えたいことをはっきりさせたり、順序立てて書いたりすることに課題がある。 ・「言語」 ▲ノートや日記に既習の漢字を使って文章を書かず、習得できていない。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・学年配当の漢字を正しく読み、使える力。 ・大事なことを捉えて読む力、話を聞く力。 ・調べた結果を基に自分の考えを文章を書く能力。 ・文章を適切に区切り、接続詞などを用いて伝えたいことをより分かりやすく書く力。
	具体的な授業改善の方策	・深く読み取るために、説明文では言葉の意味を正確に調べ、筆者の主張と具体例を明確にさせ自分の考えをもたせる。物語文では登場人物の心情や関係性を捉え、テーマを明確にさせる。 ・5W1Hを意識させて、詳しく、具体的に書くようにさせる。 ・辞書を活用し、言葉の意味や正しい漢字を書けるようにさせる。
	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	・読み物教材については、登場人物の心情を叙述を根拠に考えることが概ねできた。 ・説明文については、問いと答え、筆者の考えの3点を軸に読み取ることが概ねできた。 ・書くことについては、大まかな文章では書くことができるが、具体性に欠ける場合が多い。語彙や語感を養い、多くの言葉で書かせる。 ・説明文の要旨を捉えることができる児童と難しい児童の差が大きい。そのため、始め・中・終わりの文章について短い言葉でまとめ、最後に要旨としてまとめていく力を付けていくことが必要である。
令和5年度 10月 第6学年	学習に関する児童の実態・課題	・「読むこと」 ▲説明文では、文章全体の構成を捉え、要旨を把握すること、文学的文章では全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えることが苦手である。 ・「書くこと」 ▲文章全体の構成や書き出し方を通し、文や文章を整える力が未熟である。 ・「言語」 ▲既習事項の漢字を日常的に読んだり書いたりすることや、語彙を豊かしようとする、語感や言葉の使い方が広がらない。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・説明文では内容と構造の把握の部分で、要旨について把握していく必要がある。主張や事例、考えなどに押さえて大まかな内容を自ら理解できる力が必要。 ・文学的文章では、精査・解釈の部分で特に長い文章になると全体像や表現の効果を理解するために、場面ごとの切り取りではなく、物語全体を通して読む力が必要。 ・初め、中、終わりの部分で自分は何を伝えたいのかを明確に押さえて内容が矛盾しないように整えて書くことができる力が必要。 ・語彙や言葉の意味を理解し使える力が必要。
	具体的な授業改善の方策	・説明文では説明文の書かれ方を知り、それぞれの段落で大事な部分を押さえていく。また、初め、中、終わりがどんな構造になっているのかも考えていく。 ・文学的文章では、場面ごとに切り取るのではなく、全体を通して読めるような授業計画を立てるとともに、特に物語の中でのクライマックスや表現の効果をピックアップして、全体像をつかめるようにしていく。
	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	学力調査の結果から、東京都の平均よりは正解数が1問程度下回っている。正答率は8問程度で、中間層の割合が多い。しかし、基本的な部分のみの理解であり、自ら考える学習では難しい。さらに下位の児童については、学習内容に個人対応してやっと把握できる児童もいる。基礎的なことを押さえて、まずは一斉スタートが切れる土台を授業の最初に築き、個別最適化や協働学習に向かえられるとよい。

授業改善推進中期プラン **算数**〔小学校第4～6学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等	項目	内容
令和3年度 第4学年 年度末	学習に関する児童の実態・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算・数量関係」において計算ミス等が見られる。日頃から、は⇒速く・か⇒・簡単に・せ⇒正確に、問題を解くことを意識させる必要がある。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の定着を図るための手だてとして、課題⇒自力解決⇒話し合い⇒振り返り⇒まとめといった、学習の流れを定着させる。
	具体的な授業改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で間違った場所を確認し、直す習慣と、具体的に「何が間違ったのか」を吹き出しにして赤で書くなどの方法を身に付けさせ、同じ間違いをしないような意識付けを行う。
	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算や数量関係において、プリントや計算ドリルを活用して、基礎基本の徹底を行い、学習評価テストでの単元学習の学年平均が70～80点ほどであった。 ・単元学習評価テストの平均点80点台を目指すために、計算のスキルを向上していくことに着目し指導する。また、5学年での文章問題の学習や発展学習に向けても基礎基本の学習を見直す。
令和4年度 第5学年 年度末	学習に関する児童の実態・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○上位・中位の児童の多くは真面目に授業に取り組む。 ▲東京ベネシック・ドリルの4年診断テストで、立体的知識の問題の正答率が32.8%で、低かった。 ▲「小数のわり算」テストの「知識・技能」の平均が6割程度で、期待得点の8割を大きく下回った。 ▲下位の児童の一部は基本的な生活習慣が身に付いていない。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の四則計算の基本を活用し、小数や分数の計算に生かしていく力。 ・三角定規・分度器・コンパスを正しく扱い、正確に作図する力。 ・課題の意味を把握した上で自力解決し、数学的に表現する資質・能力。
	具体的な授業改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を身に付ける場面と、思考力を伸ばす場面を区別し、目的意識をもたせる。 ・個々の児童の学習状況を、机間指導で細かく把握し、必要に応じて適り学習に取り組ませる。 ・教直線を活用する機会を増やし、自力で書けるように支援する。 ・児童相互で発表したり話し合ったりする機会を作り、学習の振り返りに生かせるようにする。
	習熟度別少人数指導における具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・次単元のレディネステストを行って児童の実態をつかみ、意欲的に学習できる習熟度別クラス編成を行う。 ・習熟度にかかわらず、必要に応じてさかのぼり学習に取り組ませる。 ・問題提示⇒課題把握⇒自力解決⇒全体検討⇒まとめの授業スタイルを確立する。習熟の時間を必ず確保する。単元の始めと終わりには学習を振り返る時間を確保する。
第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習評価テストにおいて、知識・技能の点数がおおむね70～80%を超えているが、思考の点数が60%程度と差が大きい。 ・基礎的な知識・技能を身に付けさせることができた。数学的思考力を身に付けさせるために、内容理解だけでなく、自分の考えを説明したり、他者の考えを説明できるように思考させたりする必要がある。 	
令和5年度 第6学年 年度末	学習に関する児童の実態・課題	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査では全体的に全国・東京都平均値を下回っている。 ・A「数と計算」（65%）、C「変化と関係」（69%）、D「データの活用（62%）」においては6割以上の児童が理解を示している。 ・提示されている条件を基に説明すること、図形に関する問題に課題がある。 ・問題の後半になると、無回答率が高く、文章量や情報量が多く、正しく情報を処理して答えることに課題があると考えられる。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解。 ・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力。 ・問題解決などにおいて、より良いものを求め続けようとし、抽象的に表現されたことを具体的に表現しようとしたり、表現されたことをより一般的に表現しようとするなど、多面的に考えようとする態度。
	具体的な授業改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問や問いの気付けさせる授業展開 ・問題の理解、解決の計画 ・解決の実行 ・解決結果や結果の振り返り
	習熟度別少人数指導における具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・次単元のレディネステストを行って児童の実態をつかみ、意欲的に学習できる習熟度別クラス編成を行う。 ・習熟度に関わらず、必要に応じて適り学習に取り組ませる。 ・問題提示⇒課題把握⇒自力解決⇒全体検討⇒まとめの授業スタイルを確立する。 ・習熟の時間を必ず確保し、定着度を確かめる。
年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事	